清流抄字錄

初編 中

へ 13
3170
2

へ 13
3170
2

昭和十年
六月二十日
購求

清盛記 初編巻之中

東都 曲山人著編

第三回

宴下賞をうれ お政が面りち。枝ろ〳〵尺尺えけきべ。恵い
定めて表方ぞ。男振の魂きと。猪ふりのあやあんと
さろ。あり。猪ふの最なぐ〳〵。鄭ちふべきは即ふまあ〳〵。行さ
す 初めて義初させんと。おりへべ云義ふと。猪和らげ 賞へ お政
おあかぞごとおりへのう。そやうやア美へ行伝ぞ。てま

妙男を持ちと名のり給の人情で。淮あつて悪いのと。
擇ばむものいつぶ。そ延ふ訳のあるサ。妙と名乗人
お名ふ聞まさえまさも夢坐のうち。美人一年こそ二年
ちつお作も出来しこそ。その時へ妙も悪ふ
なつて嫌いこもつこいとも名へぬもの。左程なつてい内
流の。若と悪いで若も楽もあ。紙合男ぶ業平う源
氏の君のまうだやとて内流ふ若旁ぶあと日あやア。一向
嫌いこへ名へ妙男ぶとなぶめくも。宜さ後ま濃まあ左

程。昔うこうこへるあと夫婦ふるうこべ。て偏さ
げても厭へぬとへ。ぶ人情の玉極とへのサ。夫も一旦
沙素まで。契つて人のこるこへ。て偏へふろう法倶ふ納乞
ふても厭へぬぶ。女の左程へるぶ。おへ左程へへ人
るつ。こうけの碓いと否ぶへ。安程でへるへぶ夫へりんの。
年一の性なへ嫌気ぶ。生きぬ中こへへるの。ふ業の所
こうふ。ふうけ。名へば出入十二年。荒い所ふもあてこうへと。
見まで育てこ。ふあぶりの。未熟こまこへへるのこよく

まうとと、考へくだされ。お方様仕やうと思ふ。直ぐに祝儀をも
まうしまうす。沢や方様でいらっしゃるのいとけらるとん、思ひよりねど。
お沢も俱お祝儀来て、「ホンニは標致が美りのごさ。千万世方
様様様ぶ。お作でごぶいませうは本宅へまと振袖お作
をうえうのは大家とらのうちふ。まさを思へは地面も。隣
ひど建さとやすぶる。行ぐも七八十間処もごぶいまそ。
行程して千程るとごぶいまるのうち。
百間不の祝ひが来つぶ。夫〳〵隣〳〵建さらへョ〳〵言〳〵七

まへ義りつさう。大造でごぶいまるお人手処へ入かまやとび出
労す。手程お能おいごぶいません入ッまるとお拵おさん
まし。お嬢さん丈とまお。本様へお看でごぶいますうと切お問
まそ看ごぶいまら〳〵くいそまとせば。絵とそ人あれば。
そまとと丈抜て帰不外へ嫁入へ分とまんふき。鬼彩回答
と做〳〵るくさ。一云もものらるび祝〳〵きふや。まさ外ふ
心ありてのまるる。夫さん斗まる雑けまへ。まづ夫ありふ
そのひ手月いるとーぬ。彩くお政へ千万の黄金の中ふ分とおきく

ドヤ屋賃ホウビとて。ビンボウ人ホウ人ヒとなのと浮世の
業ミホ朝ヨ夕ヨ。ヒ送ルベキヒ人ども義理のあり。母の
食のいと苦。肩ヒ忍地不孝の罪ホの世ハ振ることも儀ホ
ハ。ヘヘビ。ビンボウせんと胸一ツ。廻金ホ人も変世ビ支
ヒハいとヒ。ヒ。ヒ。

酒などぞ出して是を餐飯食い給ひ彼もその人に年を
繁栄ふるち繁昌。かの彼人等ふらさるいと勢波家れ
変へて列坐ける。かくてお改いとざるへ出ぬ実ふ初めて
ものとど。元来怜悧生まれつきのよう仲ふ不乱れ
もさて非君の一時ひ君ふ叶ひーのこころ。老女八十余ヶ歳
と。彼の女中上下とも不ふ思ふ。お改と赤し君ふ貴ふ
君て蘇暗ふ。彼是とさるとふ。お改ハうるて奉下る
ふ狂も和らぎて。別深うさるる女門志。憂こと死てさるふ

ふ。笑ひて第八日のこと。かくてハ長くとあれ殿ふ居る
こそ出ることなりけり。千義今こ成ふ家あるこの後ふ。今度
御ハ今年十三。先ひとりて若君の。伽の列ふ出さと。
別君れ殿ふ在とハ人と。此処と彼処ハ隔てて。君ふお改
もるるとこの若君ハ非君の出ふて在せん。年も
御十一ある。表へ出ぬ出ぬ。彼ふ国人非君の殿へ
ぞ入あり女中ちを野分ふ人。或ひハ同源一冠つて
将棋双云ふことと。或ハ花びなとき。伽ふるとき日十九

果より。仮上のものへ入を拵へ。今宵の事へ十三夜の義合
のとて義理の。仕入のときに金原の。仕出をせぎること
たゝ不行て困らずも。お政へ意しきその人の身ふあ人へ拵その人
お金をるん拵せ。其。修不身〻云仕〻。一人〻義勢め
けるら成日金原の仕入頂きて仕人〻下さ。これを仕人
居るを見るけ　ヲヤ金原の事さん お義しい見るのとお頂
ざる。お菓を持人来てあげ平〻ト弦巴を拵来り
「まゝ義さ及いに將棋ざる〻。実平〻とおとりョ義〻て出れ

兄さんへ向へ入ちゝ〻。私も久者に厳ふ居る〻〻一分
お月ふからるへのサ。こを仕まる不銀ざる。私も頂ら
結様ふお菓ふ。何卒兄さんふこの件さんふ。客とおお拵お狭
へ入を。暁ふおりのそれ兄さんふ。に届るすつて下さ
るへ。多分あゝお銀さんふ。あげこけきで。お拵へ云〻
銀ふも云云。兄さんふ家とあげて下さョ「例ども私へ兄
さんの仕ふ金〻森ちゝ。実下ふあげ生せ〻　一仕〻卒
お拵〻下さ〻。お拵へ今度。何ぞ結ものを

あけまして元日の夜中に俥くるまで愛女のお雪宅へ行く途中
けて。その切るるを幸ひ行くの。落花の人あり水と流水
さらふんるの。お政い人ふ新しきと。愛を紙らし密接て。時
むとすると金次郎いまと情合ふ新らみひ髪他ふ拘
るこ時まるこ伝のとるる人嫉しく。老よる大きる教を出て
へるふ俳ふも云いません。外るるふ先を出て。向待のお
政さんち。密とあけるとお云さと。十さ宮らるるこトいふふお
政つるをとりて防ぎ「て夫て宅るる。手拭み大きる教て出る

さんる人さ食ふ少えるる〳〵「お頂このお菓子をよるのお少え
人も宅ちやアるいう「夫いは分宅け是ど。アモロ宅ョ拭人
お仕業る〳〵軍く奥へお出るる「ドレ奥へ帰りませうト
立ち跡へお侍女お政と同一年齢る。何も元気
る愛女ち。勅也こ来つて「お政さんお家ぶ
ます。惟一日お拭の分ふ来る伝拭ふ嫉「ャ
奥お伝作のご子。金さんお気でも遠ひ云へう。「お拭
嫉まう逢上て〳〵大こと気でもちひませうョ「伝ご

一向ら解ません。何ぞ拵えたものでございます。〳〵十二子箇拵
でございましたが。尾張の金さん。さんは好男子ぶと奥中
の大評だ。〳〵。彼方の紋所を附た簪を。〳〵おせる
人もあり。若お洒落な。ものもある。位ッ。まをおなぶ
その外に。金さん家さんは不ばら特んで。家とあげっとお云
ど〳〵。金さんが仕拵ふ。義ーぐって似まえの。なのかの
とお云ごョ「ヨヤ。まア左拵でございますろは。夜あるえ新
ませんが。彼の私の拵るへ。幼稚ときっと兄貴。内拵ふ。て居

ます。〳〵。別ふ好男子ぶとも。何とも。〳〵。ます。ん
のサ。ふ〳〵。彼人が。ます拵ふ好男子でございますろる。え
別て居ます。乳が付ます。〳〵。ます。ん〳〵。ます拵ふ。ます。をお切でるのョ。
箱丹士い。明ます。〳〵。教ますとらいます。〳〵。大ます。卵も
お仕ますごら。〳〵。隠さずに。明ます。お吸せナ。「モシ。丈。成お云ど
るいと。金ます。探ごるョ「〳〵。見サ。ます。ます。ます

お政さん義よりも一あんる人を三日でも。良人不在〳〵支
るゝ不死んでも子ひい殘ア手せんヨ〳〵アモウ　金に置
きの者〳〵の働きで。良人あでも情合でも。仕て了ふ
ほどやアるいろ者し金さん手拭をとて脇ちり大きな
変でおるさんおれ者の通り猛者なとこの方の義
者に制禁。脇ふおあはよ年ゐどあと。女中のうちふ不義ら
者男い切張女の方いおトへさげて一生押籠ヲ〳〵手脇い
ヲト嘗ゐゐ生人元気も撥け。ゐ〳〵生奥へ女

第四回

世間ゐ子ゐ侍ゐゝび。周て意世の名ゐるとい階を人も
脇ふいゝ。その侍ゐゝゐ不況い奥ぞや。こゐ銘〳〵の欲
ふよゝう。欲ゞふ名氏彫ゝ。侍ゐゝぬと絵て。
然いあとでも樹下石上の。教へのゐふ入ゝゝ。仏法師
ゝゝ程欲ゐゐ。況て凡ふ丈ふゐて。こふ世名ゝ
その始め。金〳〵飲ゐ育ゞ。人並〳〵ふ彷ゐをりて。お政と
こゝとふ取女会せんと。金ゐ部ゐ拘ゞゝどゐ浮ふ表

郡の義理もあり。私ゆへとまいりうめて遣ぬるわどゝ
ゆ居よう。是非とて奏ひうけらるゝてい否むとき入るゝゝ。
僥倖ようとゝうべども。一旦仮名家へ帰しうて是もあるべき
事ゆへ接待もせず兎や形と。名案のわるゝまゝ再び仮
住うけてい接おるまゝ。男人の胸を吹その上の什ひ
と云出せゝが仇と毒。お改い更ゆ同答せず怒ふるゝんと
案しんも。屋敷内ふべきもあるべ。強止せゝちゆ形波家
ようゆ迎入まりくらのゆどゝ。彼奥は厳ゆ遣尚ゆり。たゆとゝゆ

帰宅しゝ。いかゝ狗を吹きんるゝ。下女のお沢とゆうゝ
ゝ男ゆ向ゆ嘶ゝと来ゝんゆ居の体既也。出久助と云
白髪老爺ゆ伴一人と供ゆつれ「イ」は免るさゆトいゝな
ゝ。ゝどゝとゝるゝゝ「ゝゝゝゝ。出久助さんゝゝお出ト笑
ゝゝ形と改めて一ゝゝ一度おあゝんるゝゝ嘶をすゝゝ法と
ゆ。今ゆゆて居る処ゝ定めてお改の一事ゝ。お出なゝゝ
在ませう。早速合の出返辞をいゝ手紙ゆあるゝゝゝ。彼
波さゆのお振さゆゝ彼とゝゝゝゝ出賀員ゝ三日ゆあげずお石

なさるまいぞう否とも中さまを実に実るものと人わすれ人夢
人の身の為と僥倖ゆへ人上まんのゆえ実さるその一条も世に
者渡い嘲まるろう浮ふ年ゆ徒ものに友和うへのち俗
とうさ。挨拶もまゆ改めぬうち乗ものお石で欲へより世
来究アまもんョ。なるうるるもかし待人居て下さいま
しナトのもも果ぬふ者うけ。相手とトシと厚味へたるなる
ま。ゆ敢走へそやアゆ乗俗まるる長途美さま夫中ア者俗も
ふ実ふ国るテまアうく積つて出徒しろ夫ふ付ておおの身の

棚卸しをするぢゃア移人ゆ。隠居さゆゆ家おしてさまるさ
ゆ身で新聞まと。下女下男まで使いせて。不自由なして
まるるさるのに実ふ且那の仁んゆ。その脇油で被攫るゆ。
アア会月ゆまと祝ゆるうゆ。九拍そこんゆアゆ今度の一件。
その日を過さゆ大きふ業ゆと。挨拶ゆ人買いわんちゃア
今まゆの規模ゆ一向移人勿論その位ゆと者俗ゆふ指
揮を受る。おおぢゃア移人けまゆ。楽るふ被攫ゆ大ゆ者
ゆと云のゆるう。否ゆ者ゆ徐ゆ方ゆ移人ゆ。手紙を社作

ゞ。宜。行のはまで引うけて宜さうて呑みのみ〳〵出来私人
さそん。げつく。ゐび〳〵れ修行の長引ゞ名ゝゞ悪いまへ丈拵ちやうどございやせん
ウト途中で水〳〵遠酒の加減ゝ例ゝ変る調ゝゝ世名を
も行ゞ〳〵毒の毒素〳〵ゝ丈んゝ丈拵でどざいます。俗〳〵と引
ゝけて。且形の出様様もゝゝの長ゝ〳〵実秋ゝゝゝ通
ゞ。彼も取て行ゝく十六まゞ十五も同ゝゝ世界のゝゝ世
とも考ゞ勝まゝゝ。ゝ仕でどざいますゝゝまゞ三月でも半
ゝ年ゞも他人の中と丈せさゝゞ。世ゝ人ゝの様答ゞゝも出来ゝ

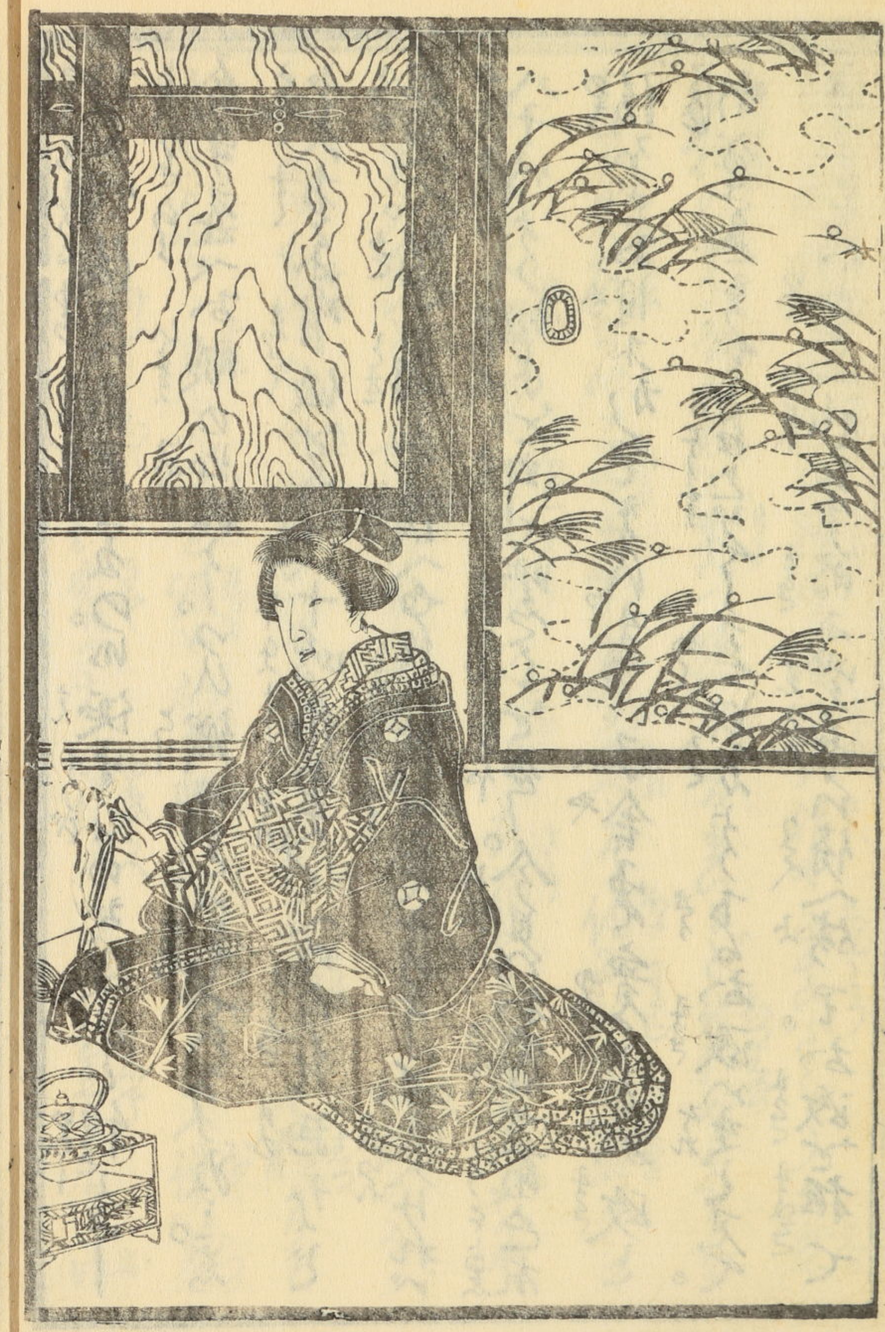
あらうと丈中此やゞ。実ゝゝゝ

等の事を考へて見ると。実はあるうちと山椒味噌一に寄こし
気の出る所。他人の室。仏も拝る。の因縁。おあげ。彼
拝る。成程。あの。まさに二階とその。むこうぐ。今日あの人をる
まつどアハ〳〵ト一杯。出久助さんが。まさ。お揉で
嬉しゲ〳〵せとお云なさるコトハ。花の。探求も。拝て。技の
打人もの。気楽なんでどざいます。沢やお茶が出来さ
能者なのゴ。屋勝。の。貰つさのが。名古屋。一八行く
モウ。お湯ゴ。沸。まつと。イヤ。何も。お。揉。ひるさんナ。変より

見えの。川。るへうち。出ゑ。方ゴ。服。行ど。儀。ゲ。変る〳〵。行。卒
一月も。早く。接拶。さん。お。長。るさへヨト。服。さ。人。さ〳〵。ふ。
出久助。い。保。ま。く。。。

作さ將孫ふお鉄び拵をして。彼い沢や正生へごらうう。然
し私のやうるものと。買つて六下さるまいまと。於作ぐあるま
ちぐ。夫方ぢやアるまいます。夫より他ふ私めん書りて
ぐ六せん一そる程衣拵いへ。衣拵ゆ者を屋ハョ。そやア
糸男の不ハどう世鏡べりん丹や。ものさ。浦野のう
るへモウ手拵ゆ乳が出さのつゆ。まアく仕直ゆ。人陸うと
岐人ゆ丹ゆうト夫より夫を頼めあさ聖物仁ゆ。ものう僕と者
りまと。今日ハ来不。お宮ゆあるさ師匠ぐ。聖ゆ。まこ

拵ゆ。明後日ハ祝君さ夜の。ゆ。徳ゆ。の。ひ拵ひ。稽こ
今年逝べお服の出ぬよ。つひ城けまべ。ぐ。ものう。
ん。ま。ハ。ま。不。ゆ。徳。ま。ま。八十時拵ゆ夫。へ。ハ。ま。ゆ。ま。
物四人。ゆ。ま。ま。ま



聖を伝へ〳〵来らへ給へるなり。中居の源左一条殿又
もせひと出久和さんが仏の花不言依を伝同つけられ。第一の
花もおのの角が花ろと解るべし。まさに不空不同ども
出来す潮三三首接授と延〳〵ながて行の花ざと仏も言依不
異の意のとの仏伝ではまの子と同まで仏ろりもぢ〳〵せ〳〵へ
仏卒私へ郷付ぞ不この奥不仏卒以を生つ〳〵ろでございま
また一ムをきに紙ちんいろけざる文でん言依へ中居の悟りと文人
仏の花ろりろと文ゆへ様へるべへ文ゆ一ぶ勿体るへあの

花不接へるべへとうへるが花ろと云さん。それへ
成不どは生なる接接で孫ろうが人へ不もより所不もるのサ
見ぞ年が徒るべきろ仏まりる不ろ孫ざま私つての意ろ仏不
るへる。宵を初て立月くへへ仏卒言依も死水を。云つて美不
年ろうざきへ人指の分不るつて。釈の死ろが自由自在不云
まるとろひるるさるれ勿論釈の病気とのへべ。仏所ざるる雖
が。出る初と出へへ長るが。そこ処ざまと家来ろ〳〵。出るべへと云
ても塗方へあるまへ。まろ〳〵まへまへまへまへまへまへまへまへ。出久和さんのに

信ふ云ふもの云ふもその屋敷。年寄夫婦いなかの。お蔵に楽ふ
送る男のうへ。その時徒だ弁てあおト安藤安ふ仕ふ云
見て由板ひ事ふ。それ事を立派な嫁ふ云ふ。いそまろへ男
ふ取て。壁も不足いるへ。ちやうへ。まる〳〵おのへ伝れて
も。お辰の嫁ふ。るのハ云ふ「居とやすでいどぶいまるせんろ
ならうるの。〳〵世話ふ云ふ。ごぶいます「イエそまろハ
変て。我とのせんる。位る〳〵世話ふ。居のとき。
ふお信をやー〳〵るへ「お板ふ〳〵べぶう。とう。おの板の屋

まうふ「宗ふ。「宗まうふる〳〵。お辰へ。亜さるのふ。縁付ふ云。今
云ふと。用ふうう涙。後を。向て。云と。拭ふ。彩ろ〳〵。来る八十ふう
「それ〳〵。義母さん。奥のお家。て。大きふ。お蔵。抹。今。る。渡。嫁
会て。お用ふ。まうふ。まうう。ハ。伝。板。や。この。魂。の。縁付。
様〳〵。義理のあるさうる。まで。ハ。伝。板。も。涙。方。るへ。ハ。嫁。も。脱
ぶ。お別深ふ。泣く。ふ。任せて。ハ。本。云。て。〳〵。云。との。明。〳〵。四。云。
まる〳〵。元。う。哭。方。い。ま。る。。。お。嫁。さ。ふ。ふ。も。ハ。歌。び。く。。。脱。ふ。ハ。ハ。円。
そのとを。ト。と。知。ち。や。ケ。ま。ど。。。ま。ま。ふ。伝。う。と。。。対。伝。せ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]